

令和5年度あいちラーニング推進事業研究報告書【重点校】

学校番号 42

学校名 愛知県立 尾北 高等学校

校長氏名 南谷 守

研究責任者職・氏名	教頭・瀬尾雅子 教諭・上野香織	
研究テーマ	主体的・対話的な深い学びの推進	
本年度の研究目標	<p>(1) 教科において、用途に合わせた ICT の効果的活用方法を追求</p> <p>(2) 「主体的・対話的で深い学び」の視点を取り入れた授業改善</p>	
目標の達成に向けた取組の概要	<ul style="list-style-type: none"> <li>・各教科で、それぞれの教員が ICT 機器を利用した授業を行い、教科会で具体的な活用方法について情報共有をする。</li> <li>・ICT 支援員に依頼し、ICT を使った授業実践の提案や、実際の使い方について助言をもらう。</li> <li>・各教科で、「主体的・対話的で深い学び」を目指した授業実践を行い、よりよい授業づくりに、ICT 機器がどのように活用できるのかを検討する。</li> </ul>	
研 究 計 画		
実施年月日	内 容	備 考 (対象生徒等)
6月6日	あいちラーニング推進委員会① ・概要説明。研究テーマと研究目標の案の検討をした。	教科主任
6月13日	あいちラーニング推進事業に関わる訪問（高等学校教育課） ・研究授業（英語・理科）後、教科会を行った。	英語・理科教員
7月7日	あいちラーニング推進委員会② ・本校の研究テーマと研究目標・計画案の提示 ・目標・実践計画について各教科で話し合いをし、具体案と授業者を決定した。	教科主任
7月12日	あいちラーニング連絡協議会に出席。	研究担当
7月21日 8月23日	Microsoft Forms の使い方についての研修（講師：ICT 支援員）	希望者
10月16日	授業公開期間（～11月10日） ・期間中に、各教科の代表者1名が研究授業を行った。 ・ <u>国語・地歴公民・数学</u> については、拠点校（江南高校）が授業の参観・助言指導を行った。 ・期間中は全教員が、一つ以上の授業参観を行った。 ・期間中はできるだけ多くの教員が、ICT 機器を授業で1度は使用するチャレンジ期間とした。	全教員

1月22日	OneNote Class Notebook の使い方についての研修 (講師：ICT 支援員)	希望者
3月下旬	・研修担当者が、報告のまとめを職員会議に提出し、情報の還元を図った。	全教員

研究成果の評価及び普及・還元に関する実績

1. 研究の成果について

A. 研究目標の1点目「用途に合わせたICTの効果的活用方法を追求」について、各教科がそれぞれ取り組んだ内容・結果・実践上の課題について報告する。

**国語科**

①授業で PowerPoint や動画を作成させ、それを Teams 内のフォルダに集約し、発表させた。

【結果】国語の文章の読解を補完し、プラスアルファの学びの機会を生徒各人に与えることができる。読解力・表現力の養成に大きな効果あり。

【課題】ネットワーク環境やPCのトラブルに見舞われることがあり、安定した授業進行が行えないことがある。

②記述問題解答を回収するのにロイロノートを使用した。

【結果】リアルタイムで生徒の解答が提出されてくるので、理解状況がよく分かった。また、名前が見えない状況で全員と共有できるので、解答の良い点、足りない点等の解説がやりやすかった。

【課題】最後までログインできない生徒が何人かいて、紙での対応と並行した。また紙の方がいいという生徒もいた。

③teams での課題の配付、提出を行った。

【結果】回収、点検の手間が減る。生徒がグループで共同作業ができる。動画やスライドの提出が可能になった。

【課題】作文を書かせるような課題は結局印刷しないと添削ができない。

④授業ノートやプリントの一部で One Note アプリを使用した。

【結果】プリント印刷の手間が省ける。ノート点検が効率化される。生徒の進捗を適宜いつでも確認できる。

【課題・改善点】生徒教員ともに慣れるまで時間がかかる。タブレットの充電がないと使用できない。

【提案】学校で生徒のタブレットを充電できるスペースは作れないか？

**地歴公民科**

①タブレット、パワーポイントを授業で使用した。

【結果】板書の手間が省けた。

【課題】プロジェクターの準備に手間がかかる

②小テストに Microsoft Forms を使用した。生徒が気軽に取り組んでくれるので良かった。

【課題】点数の設定があり、新課程の評価に活用できそうだ。

③Microsoft Forms を利用して授業の最初に日本史クイズを実施した。

【結果】前回の授業の振り返りに効果があった。

【課題】毎回、選択形式のクイズを作るのに思ったより手間がかかった。

④パワーポイントを授業で使用した。

【結果】写真や資料を手軽に見せることができる。

【課題】スライドの準備に時間がかかる

### 数学科

①Microsoft OneNote を利用して電子黒板のように授業を行った。

また、生徒に OneNote のクラスノートを活用し、ノートを取らせた。

【結果】プリントの印刷や板書時間の短縮を行えた。そのため、演習時間を多く確保することができた。生徒のノートを回収せずにチェックできる。

【課題】スクリーンに映す資料作成に時間がかかる。教科書出版社が pdf 版の教科書等があれば楽だと思います。教員用のタッチペンが一人一本ないため、各自で準備する必要がある。慣れてくれば非常に便利だと感じています。

②データの分析の単元でパワポ・Word を使用し、実際にデータを取り授業を行った。

### 理科

①映像やテキストを投影し授業を実施した。

【結果】黒板に書く事柄が減少した。

【課題】教員だけでなく、生徒自身で ICT を活用できると良いと感じる。

②タブレット(使用に慣れていない生徒がいるため、スマホを利用することも多い)を利用して調べ物をさせた。

【課題】関係ないサイトを見ている者がいる。(画面を切り替えて素知らぬふりをしていることも多く、注意のしかたに工夫が必要。また、一部のそういった生徒の対応に時間を取られることも困る。)

③問題演習の際、OneNote で問題を映し、ペンで書き込みながら解説をした。

【結果】PDF を映しだし、書き込みながら演習ができる。グラフなどを板書しなくてもよい。

【課題】赤本や共テは文字が小さいので問題文は映す意味が薄かった。紙を PDF 化したときに画質が悪いとプロジェクターで写してもぼやけた像しか映らないので事前に確認が必要。

④実験映像を見せた。

### 英語科

①学習内容に関連した動画、資料の提示。生徒はスマホ・タブレットで情報検索させた程度。

②生徒の学習状況の振り返りに Microsoft Forms を使用した。

【結果】これまでは紙でやっていたが、データの方が結果に一覧性があり、分かりやすく、管理もしやすい。

【課題】欠席した生徒のデータが回収しづらい。

呼び出してその場でやってもらうと確実だが、時間がとられる。

③長文読解の授業でパワーポイント、OneNote を使用した。

【結果】長文の文構造を説明したいとき、PowerPoint は視認性が高く生徒に理解させやすい。OneNote は視認性の点では劣るが、プリントや教科書の PDF データをそのまま使用して授業を行えるので、短い準備時間で授業を行うことができる。

④課題のやり取りに Teams を利用した。

⑤プロジェクターでパワポの授業資料とデジタル教科書を黒板に映した。

【結果】板書する時間が短縮できた。

⑥パワーポイントで授業の解説と口頭英作文を実施した。

【結果】板書時間を省いて相談や練習の時間を捻出できた。教材をくり返し使用できた。ほかの場面でもコピペして使えた。

【課題】パワポで解説を作成し、希望生徒に配信する予定。

#### 保健体育科

①保健において調べ学習のレポート提出に Teams を利用した。

【結果】紙媒体と比べ、より短時間で深い探究ができた班もあった。

【課題】班による個性がでにくかった。

②調べ学習において、タブレットの使用とパワーポイントでの発表を行った。

【結果】PPの共同編集やアニメーションなど、グループで協力しながら活動に励んでいた。

③保健の調べ学習でタブレットを使った。

#### 家庭科

①発表、相互評価、課題、課題提出、調べまとめなど、プリント等配付に活用した。

【結果】慣れてくるとスムーズに活用できる。

【課題】表示に時間がかかるのが難点。

#### 情報

①生徒同士で相互評価をするために forms を使用した。

【結果】教員がアンケート結果をまとめる必要が無いので手間が省け、かつ生徒同士で容易に相互評価できて良い。

【課題】評価結果の閲覧ページの URL をどのように集約してクラス全員に提示するかが課題。現状では生徒は URL をメモ帳に記したものを提出後に、私の方でコマンドプロンプトからファイルコピーのコマンドを打つことでメモ帳のファイルの集約を行っているが、コマンド入力以外の方法で集約する良い方法を模索中。

B. 研究目標の2点目「主体的・対話的で深い学び」の視点を取り入れた授業改善について、各教科がそれぞれ取り組んだ内容・結果・実践上の課題について報告する。

#### 国語科

①文章を読む際に生徒がまず自分で文章を分析し、それをペアワークなどで確認しあい、全体でも要点を確認し、全体にフィードバックしていった。

【結果】生徒が受け身ではなく主体的に文章読解に取り組むようになった。

②枕草子にちなんで「ありがたきもの」を創作。辞書作り活動。

調べ学習とプレゼンテーション などを行った。

③古典探究において言語活動においてより内容を深く読むような仕掛けをした。

【結果】生徒が主体的に内容の解釈に取り組むことができた。

グループ活動にすると、生徒間の会話で内容を深めることができた。

【課題】生徒の学力伸長には即効性はないと考えられるため、

主体的な深い学びと学力伸長のための授業とのバランスが肝要だと感じた。

#### 地歴公民科

①発表やグループワークを取り入れる回数を増やした

【結果】生徒が意欲的に取り組めた

【課題】他と関わることが苦手な生徒への対処

②夏休みにレポートの改題を課した。

【結果】伊藤博文のレポートを通じて日本の近代化を深く、学ばせることに成功した。

【課題】クラス全体で発表できる環境や方法が自分にはなかった。

③生徒にレポートを作成させ回し読みして評価させた。

【結果】他の生徒のレポートを見るのが良い刺激になる

【課題】授業時間数に限りがあるため十分に時間をとることができない

### 数学科

①授業プリントを活用した思考力・表現力の向上

【結果】年明けにアンケートを取るのですがまだ結果は出ていませんが、多少は途中式や説明を書けるようになったと思います。

【課題】授業準備（プリント作成）が大変である。

### 理科

①授業開始時に本時の目標を立て、時間内で実施し、終了前に振り返りをする。

【結果】通常の授業時間内は主体的に取り組んでいたように感じた。

【課題】このやり方で入試に対応できるかどうか

②学習が比較的容易な単元で、自学自習を中心とした授業を取り入れた。

【結果】遊んでしまう生徒が出るのでは、と心配していたが、多くの生徒が真面目に取り組んでいた。生徒同士で質問をしようのもよかったようである。

【課題】自学だけでは理解が及びにくい内容というものがあるので、それをどう扱うかを試行錯誤中である。また、生徒からの質問が多く出る（それ自体はとても良いことで嬉しいことだが）ので、それに答える（応える）時間が足りない。これまで通りの授業の方が効率良い部分も多く、見極めが必要。

③単元の導入の場面で、単元の内容と身の回りの事象を関連付けるような発問をし、話し合っ  
て考えさせる。

【結果】これから学ぶ単元の概要をつかませることができる。

【課題】対象とする身の回りの事象・現象を認知していないことが多い。

（病気の原因は何か知らない。植物の名前を言えない。など）発問に工夫が必要。

④演習の時間の終わりに教えあい学びあう時間をとる。

【結果】教える方は理解が深まる

【課題】相談ができない生徒もいる。

### 英語科

①ペアワークを毎回の授業で取り入れる。

【結果】「なんとなく分かる」状態では、ペアの相手に要点を説明することが出来ないので、より深い理解へとつながるように思う。

【課題】ペアの組み合わせには気を使う必要があるが、座席移動には手間がかかる。

②学習内容に関連した調べ学習と発表を行った。

③授業中に生徒達自身が考え自分の意見を伝える場面を増やした。

④グループで精読用のワークシートを完成させ、文法から読解まで多岐にわたる教師の質問に

生徒が答えていくという授業を以前から行っている。生徒から何らかの答えが出るまで、ヒントは出しても教員は教えない。

⑤条件を提示したうえで、テーマを自分で決めさせ、調べたことに自分の考察や意見を必ず入れ、英語で発表させるという授業をしている。

⑥ディベートのテーマとして社会問題を扱い、調査をさせてデータに基づいた意見を述べさせている。また持ち寄った個人の意見を teams の意見にまとめさせている。

⑦「教える」のではなく「自ら調べる」ことを中心に進めた。

### 保健体育科

①タブレットを使用し、プレゼンテーション資料づくりをさせた。

【結果】発表が出来る生徒は多い

【課題】重要なことや伝えたいことが曖昧、コミュニケーションや人との関わりを感じ、思いを汲み取り、自分の考えや思いを伝え、思考を深めていく、議論するなどできない生徒が多い。

②保健において調べ学習を中心に据えた授業展開を実施し、単元内容に関連するもので生徒自らが役立つと思ったものを調べさせ、まとめさせた。

【結果】授業内でより役立つ情報を得られる機会を与えることができた。

【課題】定期考査向けの学習には寄与しないことが多かった。

③グループでのミーティングや自身が興味を持った事柄について深く調べ、グループで1つのプレゼン資料を作成し発表した。

④調べ学習から幅広い取り組みを行うことが出来た

### 家庭科

①各自で調べまとめ発表、相互評価、質疑応答を ICT で行った。

【結果】相互に意見交換、質疑応答をすると効果的だと思った。

【課題】質疑応答に対応できない(しない)生徒もいる。

### 情報科

①forms を用いて生徒同士に相互評価をさせた。

### 総合

①総合の授業で SDGS の発表をパワポで班ごとに分担して資料を作成し、発表させた。

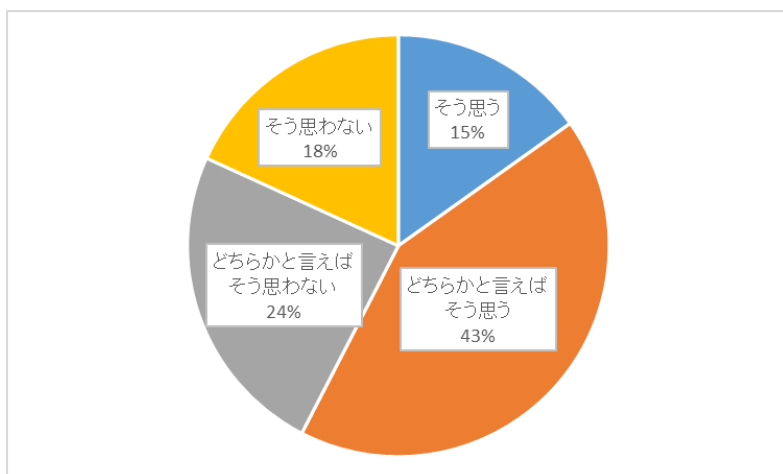
【結果】教員の想像以上の資料を作成

【課題】教員の力量も上げていかないと、指導力に疑問がつく時代になった。

## 2. 実践の成果

以下が今年度の取り組み実施後、12月に教員へ行ったアンケート結果(回答数33)である。

A. 今年度の事業は、自分の ICT を活用した授業を行う意欲に寄与したと思うか？



<コメント>

「そう思う」「どちらかと言えばそう思う」

- ・授業改善のきっかけとなった。
- ・研究授業を通して様々な先生方に見ていただき、フィードバックすることができたため。
- ・授業の重なりばかりで見学に行けていないが、ICTは自分で考えて活用している。
- ・やらなければいけないと思えた。
- ・使用する教材や単元を考えるきっかけになった。
- ・どちらかという ICT を活用した授業に積極的ではなかったが、機会を与えられた感じ。
- ・差し迫った必要性を感じないため、このような事業がなければ使うことを行動に移せなかったと思うから。
- ・ICTを活用している先生方の授業が参観でき、便利さが実感でき、使用してみたいと思った。
- ・ICTの授業を見る機会が増えたことと支援員の方のサポートで、簡単なことでも質問できる環境ができた。
- ・他の先生方のICTを利用した授業が参考になる。
- ・積極的にICTを使用していこうという気持ちになったし、教員間でも情報のアップデートができた。
- ・同僚の取り組みが刺激になった。
- ・研修や実際にツールを使用している同僚の授業を見る機会が出来たので、使用へのハードルが下がった。
- ・毎時間毎時間やらなければいけないというよりは、必要な時に適切なタイミングで使用すると非常に便利で、生徒の学びに生かされるということが分かった。
- ・個々の能力や思いつきに基づいたICT研修では、教科内や学校内で組織立ってアイデアや教材をシェアし技術を習得していくことが困難だから。

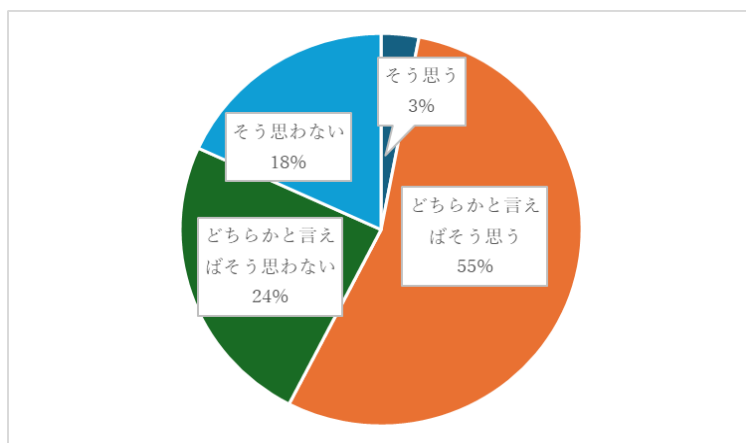
「どちらかといえばそう思わない」「そう思わない」

- ・現時点ではこれまでと大きな違いがあるようには感じない
- ・「あいちラーニング」事業があってもなくてもICTを使って授業をするための教材研究をする時間がない。
- ・前年と変化がない
- ・事業の趣旨、概要を十分に把握できていない。
- ・事業自体が中途半端に感じる。
- ・事業に関係なく、もともとICTを使用した授業の予定があった。
- ・基本的な使い方が理解できていないため、どのように使ってよいのか、どのように使えるのかがわからない。今後、必要になったときに必死に覚えなければならないように思うので、急激に利用が普及するのが怖い。
- ・皆さんの仕事が多忙な中で研究授業を行っても参加して頂いた先生方は少なく、私自身もただ準備に労力を要しただけであった。
- ・勉強に関しては情報収集に関してはICTの方が良いが、学習効率の面では紙が勝っている

と考えているため。

- ・私の想像の範囲を超えた、斬新な使い方をされている授業が見られなかったから。必要に迫られてやったことであり、特にそれがあつたからという理由でもない。

## B. 今年度の事業は、自分の ICT を活用した授業を行う意欲に寄与したと思うか？



<コメント>

### 「そう思う」「どちらかと言えばそう思う」

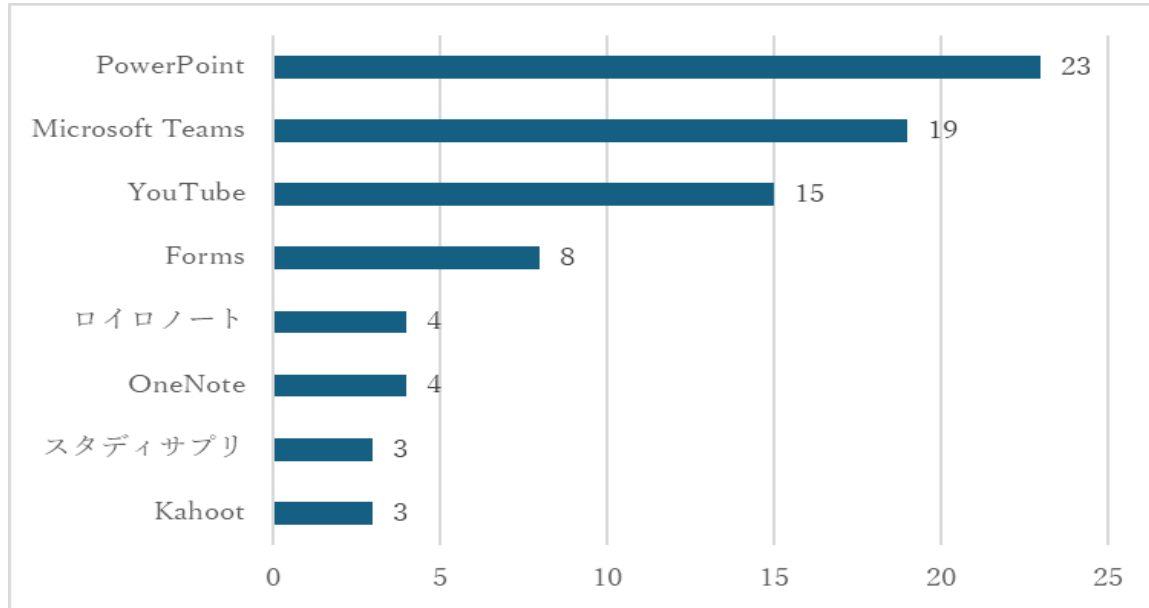
- ・授業改善のきっかけとなった。
- ・ICT を使う意識を向上させた。
- ・他の先生方の授業を見学することで良い刺激になった
- ・他の研修とちょうど重なったこともあり、主体的に取り組むことができた。
- ・教科を越えて先生方のさまざまな取り組みを知ることができた。
- ・自分だけでは取り組めないこともある。組織的に（半ば強制的に）行われることによって、取り組むきっかけにはなると思うから。
- ・他校へ授業参観へ行くたびに、自分の授業だったら・・・？と考えるようになったので。
- ・「あいちラーニング」と「主体的 対話的深い学びを目指した授業改善」という言葉を何度も耳にするため、そういう方向への授業改善を意識して授業計画をするようになってきている。

### 「どちらかといえばそう思わない」「そう思わない」

- ・授業内容が、主体的・対話的で深い学びを目指した授業を行うには難しかった。また、行うためには授業時間数が少ないと感じる。
- ・もともと、授業などについての相談や打ち合わせ、情報交換はしっかりとやっているの、その延長といった感じ。この事業があつても無くてもやっていた。
- ・ICT 活用と同じくそもそも教材研究をする時間がない。
- ・教員数の増加があつたわけではないから。
- ・この事業がなくとも、自分で実践する。
- ・もともとの授業計画に含まれていたため。事業によって授業改善を行ったわけではない。
- ・ICT の使用は必ずしも主体的・対話的な深い学びに結びつくわけではないはずだが、今回の事業ではそれを強引に一緒にされてしまっている印象を受け、授業展開の方法に不要な制限を受けていると感じる。どちらか一方のみをテーマにした方が、研究内容を深めやすいのでは。
- ・事業内容が中途半端であると感じる。
- ・普段の仕事+αとなっているので、時間が無いところにさらに仕事が増えているので、研究どころではないと思う。より深い授業を行うためにはより多くの授業準備時間が必要なので、仕事の整理が先に来なければいくらやっても単発で終わってしまいます。
- ・何事も結果が出るまでには時間がかかるため、現時点では寄与したと言えない。私の想像の範囲を超えるような斬新な授業も見られなかった。何年も主体的対話的な学びの授業実践に取り組まれた先輩方の書籍を読んだほうがはるかに効率が良い。今後の発展を望む。
- ・生徒教員ともに負担増になる人がいる。やりたい人だけがやればよい。強制しないでほしい。

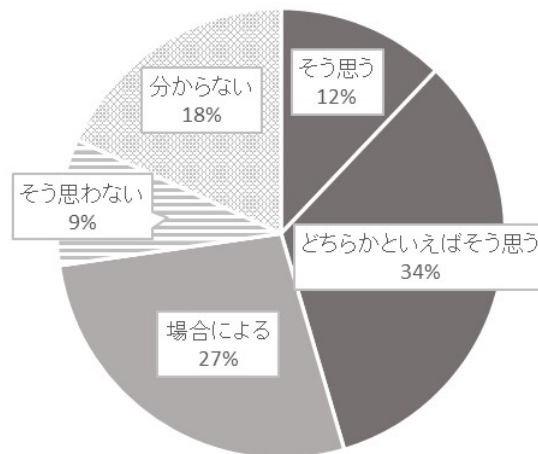


C. 今年度使用した中で、有用だと思ったツールは何か？



その他：Anki, iKnow, Quizlet (各 1 名)

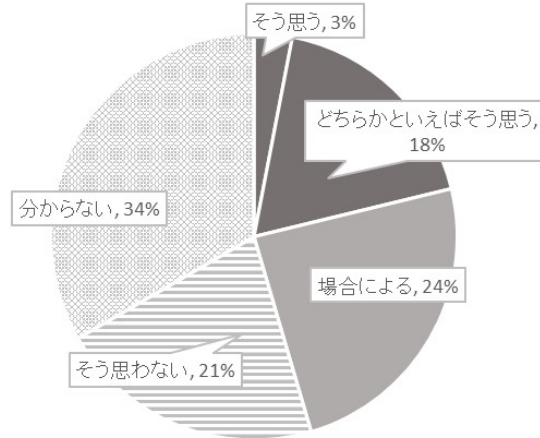
D. ICTを活用した授業は、活用しない授業よりも生徒の理解度が高まると思うか？



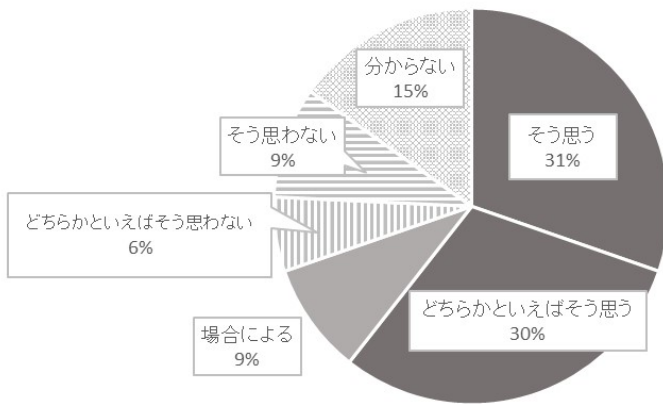
<コメント>

- ・使い方次第だとは思うが、1 クラス 40 人に対して個々の対応を授業中に行い、理解度が深まるかは疑問に思う。少人数であれば、効率よく対応できるかもしれない。
- ・(ICT に限ったことではないが) 授業内容や、生徒による。理解が深まる内容もあるし、どんどん自分で掘り下げていける生徒もいる。一方で、作業自体に手間取ってしまったり、遊んでしまったり、それだけで理解できた気になってしまう者がいる。
- ・使う人次第で変わる。意図を持って活用できれば有用だが、ただ ICT を使ってみましたというだけの授業ならやめた方がよいと感じる。
- ・何事もそうですが、道具ではなく使う人間の質によります。ただ「IT」というだけで唯一効果があったと思うのは、パワポのスライドをフラッシュカードのように使った英作文練習のみです。適した時に適した素材を用いたパワポの授業に子どもたちは食いついていましたが、それは IT のせいではなく教員の教材作成能力が高いせいです。

E. ICTを活用した授業は、活用しない授業よりも生徒の学力が向上すると思うか？



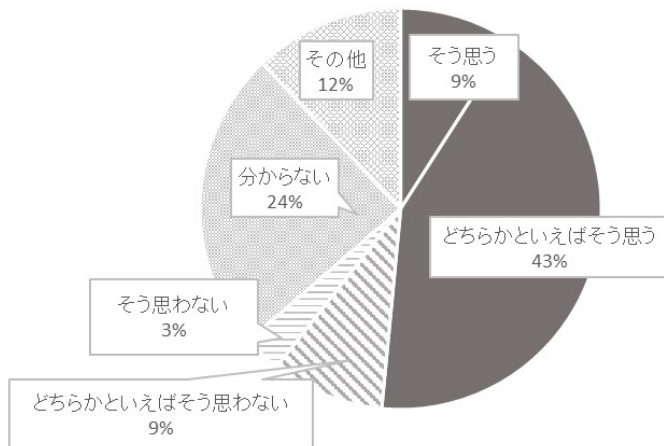
F. ICTを活用した授業は、活用しない授業よりも授業準備の負担が増加すると思うか？



<コメント>

- ・ツールと使い方次第。
- ・教科で共有する場合、作る人の負担は増えるが、その他の人は負担が減る。
- ・一度作ってしまえば、あとは楽。

G. 生徒は、ICTを活用した授業を希望していると思うか？



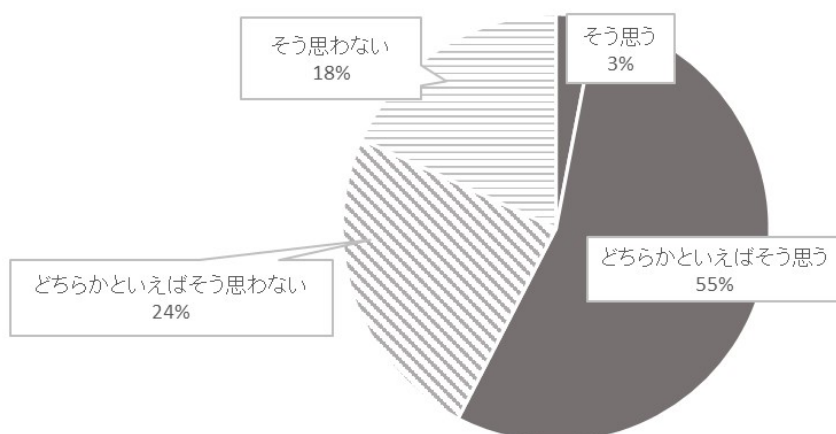
<コメント>

- ・ICT活用でも、生徒が受け身の場合と、主体の場合で違うように感じる。また、とにかく最短で問題が解けることだけを求めている者も多いと感じている。
- ・教員がそれを上手に活用していれば、希望するようになる。
- ・わかりやすい授業であれば何でも良いと思っています。

H. 自身が授業で ICT をより活用するためにはどんなサポートが必要か？（複数可）

- ①自分の教科で有用なソフトについての使い方・使用事例についての情報 —18名
- ②他校で成功している取り組みの紹介 —14名
- ③技術面でのサポート —17名
- ④安定した Wifi 環境の整備 —20名
- ⑤準備をするための時間 —19名
- ⑥ICT の活用が生徒の学力向上に役立ったという事例やデータ —12名
- ⑦その他  
チャレンジ精神・サブスクリプション費用の補填・全体的な使用環境の整備

I. 今年度の事業は、自分の主体的・対話的で深い学びを目指した授業改善に寄与したと思うか？



J. 主体的・対話的で深い学びを目指した授業改善をするにあたって、必要だと思うことや困っていることは？

①生徒の知識・学力面での課題

- ・基礎の知識や語彙力などの土台がない中で、対話をするのは、とても難しい。
- ・生徒の学力伸長のための授業と深い学びにつなげる言語活動とのバランスをうまくとるためには時間数が足りない。さらに、深い学びに繋げるためには、基礎的な知識技能は必要不可欠だと思うので、深い学びのための授業に偏重しないように気をつけたい。
- ・本校の生徒は講義型の授業に慣れているせいか、グループで答えを出していくという授業形式を定着させるまでに一定の時間がかかる。

②時間的な課題

- ・授業準備と、その結果の評価のための時間が圧倒的に不足。とくに評価の仕方に悩む。
- ・時間が足りない。対話的な授業を主に行うと教科書が終わらなくなる。
- ・持ち時間を減らして授業の準備にあてたい。
- ・対話的な学びを積極的に推進できるほどの授業時間に余裕がない。知識のインプットが不十分な状態だとただ中身の薄い会話をしている状態になることが多く困っている。
- ・新しい取り組みをしようにも時間があまりない。
- ・授業時間や業務負担の軽減をして欲しい。
- ・負担感が大きい。

③環境的な課題

- ・一斉教授から返還を目指すなら教員を増やして欲しい。  
40人が対象ならティームティーチングにすることが必要。  
スポーツなら20人程度に対して4人でジャッジしている。

- ・生徒の人数が多いとやりにくい。
- ・準備をする時間と実施するために必要な自分の知識が足りていないと思う。
- ・国内外の事例がもっと必要。
- ・毎日生徒の手元に ICT 機器があること
- ・強力な wifi 環境、スペックの高い PC、自由度の高い授業時間  
(年間の計画表に沿うと時間が足りない)

#### ④その他

- ・何事にもバランスが大事。
- ・今後の適切な教材選びが課題。
- ・最初の手間を惜しまないこと、苦手意識の払拭。
- ・評価方法と、良い(+使いやすい) ルーブリック。  
生徒がこのやり方で自己成長をしていると実感をもてる仕組み。

#### J. 来年度のあいちラーニングの研究テーマとして、興味があるものは？(複数可)

- ①主体的・対話的で深い学びの推進 —9名
- ②ICTを活用した授業実践 —15名
- ③3観点の評価基準を用いた評価方法について —9名
- ④個別最適化の学びについて —15名
- ⑤指導と評価の一体化について —13名

### 3. まとめと今後の課題

研究一年目は、「ICTの活用」「主体的・対話的で深い学び」をテーマに、各教科で実践事例を共有し、今後の課題を見つけていくことが主な目的であった。アンケート結果を元にする、今年度の事業が授業改善への意欲につながった教員が、回答者の約半数を超えており、ある一定の成果はあったのではと思われる。

一方で、「ICTの活用」については、授業準備の負担が増すと考えている教員は約60%、ICTの使用が学力向上につながると考える教員は約20%であり、今後の授業改善においては、教科間で取り組みを共有したり、成果を検証したりすることで、より有効な授業改善策を考えていく必要があるように思われる。また、時間・環境的余裕のなさや、ICT環境の整備について言及している教員も多いため、事業の枠を超えた業務・環境改善についても望まれる。

今回は、教員同士の授業見学や事例共有について肯定的なコメントを述べている教員も多いので、次年度は、教科毎に課題を設定し、それに協力しながら取り組んでいくという形が有効かもしれない。また、授業改善の効果について疑問を感じている教員も多いので、生徒を対象にアンケートをとるのも効果検証の一助になるかもしれないと、今年度の担当者としては感じている。次年度の取り組みについては、また校内の会議を経て決定していくが、次年度は、より多くの教員が取り組みたいと感じる目標・手立てを設定できるよう努力する所存である。